



衣川 官介

『梵鐘の恩人2 坪井良平氏 著書』

坪井良平氏は終戦後すぐの昭和22年 8月(1947)に発刊された『梵鐘と古文化』のはしがきに、以下のように記されています。

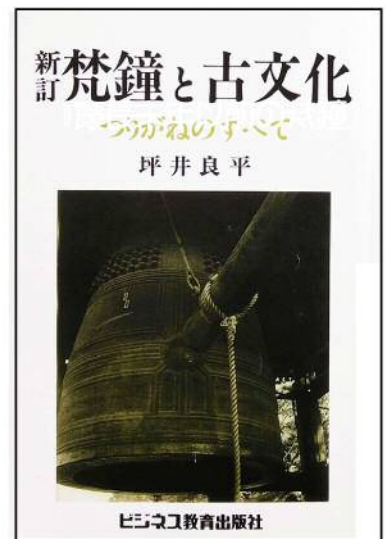
梵鐘と戦争の因縁と云えば、昔は、大坂冬の陣のきっかけを作った京都の大仏方広寺の鐘銘が思い出される程度であったが、今度の大戦(第二次世界大戦)では、その影響の深刻なことが、まざまざと身近に痛感されたことである。日本の梵鐘の9割以上が、この戦争で永久にその姿をこの地上から没して仕舞った。実に惜しいことをしたものである。その内には、単に鋳工品としてみれば、消えても惜しくないものもあったにはあったろうが、その一つ一つが、その製作された時代と作った人と、そのあった土地とその土地に住む人とに、それぞれのゆかりを持っていたことを思うと、どれ一つとして惜しくないものはない訳である。殊に供出を急いで充分調べもされずに溶解されて仕舞ったものの中に、鎌倉時代に遡るものさえあったことを知るに及んで、(知られていないものでは更に古いものがあつたかも知れないが)痛惜の情の一層切なるものが感ぜられる。(中略)

二十幾年の昔、考古学講座に梵鐘を執筆して、以来、私の梵鐘観には殆ど何等の変化をも見ないので、筆を執りつつ自らの力の余りにも、貧弱にして、その所説の余りにも陳腐なるに嗟嘆を禁じ得なかったが、昭和14年「慶長末年以前の梵鐘」上梓以後に集まった資料や、それによって前著の不備や脱漏を訂正する機会を与えられた事に喜びを感じつつ、ようやくにして脱稿するを得た次第である。昭和22年 4月13日(新訂 梵鐘と古文化 坪井良平 による)

『梵鐘と古文化』は終戦後の物の無い時代に作られた本です。衣食住に困窮していた時によくこんな文化的な本が発刊されたものだと感心します。B6判 259ページは殆ど文章でイラストは少なく、第1図『梵鐘の名称』から第7図『鎌倉及び南北朝時代梵鐘の関東地方における分布』の7図です。平成26年(2014)に改訂版として出版された『新訂 梵鐘と古文化』は大きさが一回り大きいA5判358ページ、文字も大きく紙質も良くなり、イラストと写真が58図と多く含まれ、非常に判り易く、読みやすくなっています。ぜひ、梵鐘の入門書として手に取ってみてください。

坪井良平氏 著書

図書名	発行所	発行年
慶長末年以前の梵鐘	東京考古学会学報	昭和14年
梵鐘と古文化	大八洲出版	昭和22年
日本の梵鐘	角川書店	昭和45年
朝鮮鐘	角川書店	昭和49年
梵鐘	学生社	昭和51年
佚亡鐘銘図鑑	青燈書房	昭和52年
梵鐘の研究	ビジネス教育出版社	平成 3年
梵鐘実測図集成	ビジネス教育出版社	平成 5年
新訂 梵鐘と古文化	ビジネス教育出版社	平成26年



播磨国総社 銅鐘

むらの鍛冶屋®



今回『夢通信』梵鐘シリーズの参考に上記図書を購入しています。興味をお持ちの方は、ぜひ『鉄のふしぎ博物館』へお越しください。

何でもお気軽にお尋ねください!!